

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>施設独自の基本理念を掲げている。パンフレットにも明記し、施設内にもいつも目が届く所に理念を掲げている。地域密着型サービスとしての役割を掲げた理念は検討できていない。</p>	<p>地域の一員としてホームの役割は何かを職員で考え、地域に根ざした理念を作っていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>日々の介護を行う上で、職員が理念を理解し、その実践に向けて取り組んでいる。日常的に会議の場などで、職員・管理者共に理念を再確認している。</p>	<p>理念の意図することは何かを、職員一人一人が把握できるように、繰り返し説明をしていくように努めていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には、パンフレットなどを活用し、理念や理念の実践に向けての取り組みなどを説明している。地域の人々には、運営推進会議で理念の説明を行っている。</p>	<p>運営推進会議を通じて、地域の人々にも理念を理解してもらえよう、働きかけていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の方々には出会えば、挨拶をするようにしている。近隣の方々から、声をかけてくださることもある。</p>	<p>近隣の人が気軽に立ち寄れるような環境作りを工夫していきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の行事には参加している。また地域の人々から参加を呼びかけてもらうこともある。近くの小学生が慰問に訪れたり、利用者が小学校の行事を見に行ったりと交流を持っている。</p>	<p>地域の一員として、ホームとして何か役に立てることはないか、地域活動に参加できないかを近隣の住民の方々と話しする機会を設けたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>利用者の知人等を通じて、地域の方々の介護に関する疑問や、認知症に対する不安等があるときは、相談にのったり、簡単なアドバイスをしたりしている。</p>	<p>個人的な事も含め、地域に貢献できる事はないかを職員全員で考えていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>第三者評価の意義に関しては、代表者、職員、家族に対して説明を行い、理解を得ている。自己評価は職員の日頃の介護業務を見直す意味でも各自で考えてもらい、活用している。評価後には結果を報告し、今後の取り組みについて話し合っている。</p>	<p>改善の必要があることに関しては、計画をたて、具体的に改善していけるよう、職員全体で取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>第三者評価を受けるに当たって、事前に会議でお知らせをすると共に、評価の意義や説明を行っている。評価後には会議で書面に基づき報告を行っている。それについての意見も頂いている。</p>	<p>評価の報告は行っているが、改善の経過や報告が不十分なので、計画と立てて改善していきたい。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には出来るだけ町担当者にも参加を呼びかけている。会議以外では、電話での相談などはときどきあるが、サービスの向上に関する意見交換は十分には行っていない。</p>	<p>グループホームの取り組みについて、もっと深く理解をしてもらえるよう、こちらからも働きかけをしていきたいと思う。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する研修などには行けておらず、まだまだ理解不足な職員が多い。</p>	<p>個々の必要に応じて活用が出来るように、外部にも出向いて権利擁護について学ぶ機会を増やしたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止法の中身について詳しく学ぶ機会は少ないが、虐待については日頃から職員と考えるようにしており、報告の義務などを伝えている。</p>	<p>高齢者虐待防止法についての研修の機会を作っていく。また虐待についても繰り返し職員と考えていくようにしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、家族・本人とじっくり話し合いをし、要望や意見、疑問などを聞くようにしている。不安がないよう説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が意見を述べやすい環境の中で、ゆっくり話を聞く機会を設けている。全ての利用者には出来ていない。外部へ表せる機会としては、運営推進会議の場を設けている。</p>	<p>出来るだけたくさんの利用者から、意見を聞けるよう働きかけていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月、各担当者から利用者の状況報告（身体面・精神面）を行っている。金銭の報告は管理者より預かり金の出納状況を報告している。また、状態が変化した際にはその都度家族へ連絡を行うようにしている。職員の異動に関しては、毎月の挨拶文の中で報告するようにしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が意見や苦情を気軽に言えるように、こちらから意見を聞いたり、言いやすい雰囲気づくりを心がけている。外部者へ表す機会は十分に設けられていない。</p>	<p>職員・管理者に直接言わなくても、意見、不満、苦情を表せる仕組みづくりを考えていきたい。外部へ表せる機会も検討していく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃から、職員の意見には耳を傾けるようにしている。会議の場で自由に意見を言える雰囲気を作っている。職員の意見は運営に活かしているようにしている。</p>	<p>職員の提案や意見をもっと運営に活かしていけるように、日頃から声をかけて聞いていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員からも意見を聞き、必要に応じて職員の調整を行っている。しかし、すべてに対応できてはならず、限界がある。</p>	<p>運営者にも常に相談はしているが、なかなか難しいことであり、出来るだけ柔軟な対応が出来るよう検討していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動の際には、利用者の不安や不満を管理者や職員が聞き出せるよう配慮している。新しく入った職員にも、利用者一人一人への介入の方法を細かく説明するようにしている。</p>	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>今年度は一年を通して、認知症介護に関して内部研修を行っていった。職員が講師になり発表する機会を設け、職員全員で考える場とした。また一部の職員だが、外部への研修を受ける機会を設けた。</p>	<p>継続して研修を行っていけるよう計画していきたい。職員と共に研修内容を考えていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の病院が行っている研修に職員が参加し、同職種の人との交流の機会としている。神河町内にあるグループホームと定期的に連絡会を行い、意見交換や利用者の交流の場としている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月に一度の会議で、管理者や職員同士で意見を出し合えるようにしている。また管理者と職員が一对一で話ができる機会を設けている。</p>	<p>職員がストレスを溜めずに勤務できる工夫と環境作りを運営者と共に考えていきたい。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員個々の能力を活かして勤務できるよう、評価やアドバイスをしている。職員からの提案には出来る限り協力するようにしている。また職員が自発的に取り組めるよう支援している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ゆっくりと本人の要望や不安を聴くようにしている。はっきりと伝えられない場合も、日頃の様子を家族やケアマネジャーから聞き取り、本人の意見として受け入れる努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族が利用に関して、疑問や不安を抱えているときは、一つ一つ解決していけるよう連絡を取り合うように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人の状態をよく把握した上で、必要な支援を検討している。必ずしもグループホームが適切でない場合もあるので、その必要性も本人・家族へ説明するようにしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人の精神的な安定を図るために、初めてのサービス利用の際は、必要なら日帰りから始め、短期間の泊まりを経て、入居という段取りを選択される場合もある。その際は家族の協力をお願いしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と共に楽しみながら過ごし、会話や作業の中で得意のことを教えていただくこともある。同じ目線に立って、利用者の立場で物事を考えるように、信頼関係を深められるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>利用者を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員の意見を一方的に押しつけず、家族からも、意見やアドバイスをもらうこともある。</p>	<p>利用者を共に支えていけるよう、ホームの取り組みにもっと関心をもってもらえるよう働きかけていきたい。行事や家族会などの参加をたくさんの家族にしてもらえるよう働きかけを継続していく。</p>
29	<p>利用者や家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの利用者や家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>日常生活の中で利用者が思っていること、不安などを家族の面会時に職員から伝える様にし、本人と家族がよりよい関係になるよう働きかけている。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>住み慣れた地域の馴染みの友達などの訪問を歓迎している。また地元の広報紙を見せてあげたり、地元の行事に参加出来るよう支援している。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の相性を考慮し、孤立する利用者がないよう、席を決めたり職員が間に入って関係を保てるよう努めている。</p>	<p>意思疎通が困難な利用者との関わり合いについて、トラブルが起きないように検討していきたい。</p>
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>サービス利用が終了しても、家族とは手紙のやりとりを行ったり、ホームへの訪問を歓迎したりしている。</p>	<p>サービス利用が終了し、他のサービスへ移行する場合、利用者・家族が出来るだけ不安がないように支援していき、その後も連絡や調整をしていく体制づくりが必要。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時には本人・家族と面談し、本人のこれまでの暮らし方や、人柄などを把握するようにしている。入居後も、日々の生活や本人との会話から希望や思いを聞き取るよう努めている。</p>	<p>意志の伝達が困難な人に対する要望の把握を考えていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時には本人・家族と面談し、生活歴や本人のこれまでの暮らし方や、サービス内容などを把握している。入居後も、何気ない会話から情報を把握するよう努力している。</p>	<p>家族の面会時などで、何気なく交わした会話から、情報を収集するなどの工夫をしていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人一人の一日の過ごし方は把握出来ている。毎日のバイタルチェックや状態観察を行い、心身状態の把握に努めている。有する能力の把握は日々変わっていくので、把握が不十分な所がある。</p>	<p>日々の介護を行う中で、職員一人一人の気づきを全員が把握できる仕組み作りを考えていきたい。</p>
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画書の更新時には、本人・家族から、サービスについての要望を聞き入れるようにしている。職員への介護計画書の理解が不十分な所がある。</p>	<p>職員全員に介護計画書を周知してもらうよう、説明やいつでも見られる工夫をしていく。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画書の期間内でも、月に一度個人個人のケア見直しをしている。現場での個別処遇計画書を作り、職員全員で周知出来るようにしている。</p>	<p>介護計画書のモニタリングを行っていくことと、現場での個別処遇計画を理解しやすく更新しやすいものに改善する必要がある。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子、ケアの実践内容は個人の記録に記載している。申し送りでは小さな変化も伝える様にし、職員間で共有できるようにしている。日々の気づきをメモ書きし、介護計画の見直しにも役立っている。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>家族の状況により、受診付き添いを行い、受診結果を家族へ報告している。入院時には洗濯や面会を行い、早期退院に向けて医師・家族へ働きかけている。</p>	
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域の文化祭や作品展への出展協力、地元ボランティアによる演奏会の観覧</p>	<p>民生委員や地元の警察、消防にも働きかけ、地域への理解と協力体制を強化したい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>地域のケアマネジャーとの意見交換を必要に応じて行っている。利用者の継続的な見守りをしてくれている人もいる。</p>	<p>必要性があれば、他のサービスを利用できるよう体制作りをしていく必要がある。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターと協働は出来ていない。</p>	<p>将来的に考え、長期的なケアマネジメントや権利擁護について、話し合いの場を設けていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族の希望を第一にかかりつけ医を決めている。かかりつけ医には定期的な受診と普段の状態報告を行っている。地域の眼科や歯科にも協力をいただいている。</p>	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>利用者によっては入居以前に診断を受けた認知症専門医へ定期受診されている。本人・家族の要望に応じて専門医への紹介も行っている。</p>	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>日々の健康チェックと共に疾病等の早期発見に努め、気軽に相談しながら、健康管理や状況変化に応じた支援を行えるようにしている。</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には入院前の利用者の状況を詳しく病院関係者に情報提供するようにしている。認知症状についてはその人にあつた対応の仕方を伝えている。医師と連絡を密にし、早期退院に向けて協力を得ている。</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合、終末期のあり方について、折を見て家族と話している。書面にて同意を得ることは出来ていない。かかりつけ医にはホームの重度化した場合の対応について説明はしているが、書面としては表せていない。</p>	<p>利用者・家族一人一人の要望を再度確認し、書面にて同意を得ていきたい。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>利用者が重度化した場合、ホームとしてどういった対応をしていくのか職員全員で話合う機会が少ない。かかりつけ医には今後の方針についてホームとしての対応は話している。</p>	<p>利用者の重度化した場合、終末期のあり方について、職員全員で支援のあり方を決めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居の際には本人が出来るだけ混乱しないように、移り住み方を家族と共に考えて実行している。居室には出来るだけ本人が使い慣れた物を置いてもらうようお願いしている。</p>	
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の視点に立って、傷つくことのないよう言葉遣いや声の大きさに配慮している。個人情報保護には職員全員に誓約書をとっている。日頃から守秘義務に関して職員に話をするようにしている。個人情報保護法の研修や誓約書の更新は出来ていない。</p>	<p>今後個人情報保護について学ぶ機会を設けていきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>生活の中で利用者が自分で意志を伝えられるよう、小さな事でも本人へ選択肢を提供し自己決定できるよう支援している。意思表示の困難な方には表情や反応に注意して読み取るよう努めている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の体調や一人一人の身体機能を考慮し、ペースを大切にしている。利用者全員に本人の希望する過ごし方が提供できてはいない。</p>	<p>利用者一人一人の過ごし方を職員全員が大切に出来るよう、話し合いをし見直していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>衣服を選択できる利用者には職員と一緒に衣類を決めたり、個性を大事にしている。散髪は馴染みのボランティアにより、利用者の希望する髪型にしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備は利用者の出来る能力に合わせて職員も一緒に行っている。食事形態も一人一人の咀嚼・嚥下力に合わせて、刻んだりとろみをつけたりしている。</p>	
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>買い物に行った際は、可能な限り利用者の好きな物が買えるよう支援している。家族などから本人の嗜好を聞き、それに合わせて摂取できるよう努めている。</p>	
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人一人の排泄パターンを大切に、トイレで排泄できるよう支援している。羞恥心を傷つけないよう声かけの仕方や介助方法について配慮している。</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>職員の勤務態勢により、希望に添った入浴は行えていないが、仲の良い利用者が入浴が出来るように配慮したり、湯加減を一人一人に合わせて入浴できるよう努めている。</p>	<p>一人一人に応じた入浴が出来るよう、勤務態勢を検討していきたい。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中の活動量の維持に努め、出来る限り眠剤に頼ることなく、穏やかに自然に入眠出来るよう支援している。日中でも個人の身体能力に合わせて適度に休息できるよう支援している。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>一人一人の生活歴や楽しみごと、趣味などはある程度把握できているが、全ての利用者に対して実践出来ていない。利用者にあった役割ごとは一部の利用者に対応できている。利用者の能力に合わせて、裁縫や作品作りなどを職員も一緒にしている。</p>	<p>利用者全員の生活歴や趣味を把握できるようにし、日々の生活に張り合いをもって過ごせるように支援していきたい。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力に合わせて、自分でお金を所持したり、買い物の際に自分で支払いをしてもらっている。居室内でお金を所持している方に関しては家族にリスクを説明し、理解と同意を得ている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望によって、事業所の周辺を散歩したり、併設のデイサービスへ自由に参加されているが、戸外への希望には添えないことが多い。		その日の希望に添って支援していけるような体制作りをしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	機会は少ないが、家族の協力のもと、普段行けない場所へ外出している利用者もいる。		担当者を中心に利用者の行きたいところへ外出できる機会を増やしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、可能な限り電話できるように支援している。手紙のやりとりは、家族からの手紙を利用者が受け取ることはあるが、利用者から手紙を送ることはほとんどない。		家族の協力も得て、電話や手紙の支援が出来るようにしていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるよう玄関の鍵は施錠していない。ゆっくりと話ができるような雰囲気作りに努めている。来訪者にはお茶を出してくつろいで頂けるようにしている。家族には職員から利用者の近況なども話している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については会議などで職員全員に話している。入り口の鍵は自由に出入りが出来るよう鍵はかけていない。夜間は夜勤者が一人のため、安全上施錠している。やむを得ず身体拘束を行う必要がある場合は、家族へ説明し、同意を得ている。		職員全員が身体拘束について理解を深めていけるよう、研修の機会を設けたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>職員全員が鍵をかけることの弊害を理解し、普段のケアにいかせるよう、再度学んでいく必要がある。</p>
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>職員は常にホールにいて利用所の様子が把握できるようにしている。職員間で連携を取りながら、所在の把握や安全に配慮している。</p>	
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>危険な薬品や洗剤は、利用者の手の届かない場所に置いたり、目の届かない場所に保管している。日常生活で使う洗剤は、見守りをしながら利用者が使えるようにしているが、時と場合により、除去することもある。調理器具などは、利用者の目の触れない戸棚に収納し、職員を介して使用している。</p>	
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故防止のため、利用者一人一人の危険予測について毎月の会議などで話し合っている。事故が起こった場合は事故報告書に記録し、再発防止に向けて、職員全員で取り組んでいる。</p>	<p>職員全員が事故を防ぐための知識と技術を身につけられるよう、学ぶ機会を設けていきたい。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>新しく入った職員に対する応急処置や事故発生時の対応についての研修が不十分である。利用者の急変時の対応などは日頃から話はあるが、定期的な訓練は出来ていない。</p>	<p>早期に新入職員に対して事故発生時の対応や応急処置などの研修を行っていきたい。職員全員で、急変時や初期対応の訓練を定期的に行えるよう計画していきたい。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>火災避難訓練は年に2回行っており、利用者にも参加してもらっている。災害別の避難方法についての研修は十分ではない。運営推進会議を通じて災害時の避難場所やホームの役割などを話し合っている。近隣住民への協力の働きかけは不十分である。</p>	<p>夜間や災害別の避難体制を確立していく。近隣住民への働きかけをしていき、災害時に協力が得られるよう体制作りをしていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>利用者の暮らし方を尊重できるよう家族等に相談しながら、起こりえるリスクを説明している。</p>	<p>利用者の状態変化に応じて、家族等にリスクを説明できるように努めていきたい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日のバイタルチェックと共に些細な変化も記録するようにし、疾病の早期発見と体調変化時に適切に対応していけるよう努めている。申し送りにて共有できるようにしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者にはわかりやすく服用している薬の効能を説明している。職員間では利用者個人のケース記録に処方箋をファイルし、目的や副作用を理解するようにしている。薬の変更時には医師や薬剤師に説明を仰ぎ、職員全員が周知できるようにしている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘についての知識を日々の介護の中で看護職員から教わったり、職員同士で知識を共有して、利用者一人一人に合った予防方法を考えている。排便パターンを把握し、ヨーグルトやプルーンエキスを使用したり、水分を多めにとるなど工夫している。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアの声かけを行い、個人の能力に応じて見守りや介助を行い、ほぼ全員が歯磨きうがいを行っている。義歯は毎日洗浄を行っている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>個人の量にあった食事量を提供している。食事・水分摂取量をチェックしている。栄養バランスは正確にはとれていないかもしれないが、偏りがないうように考えて献立を立てている。</p>	<p>職員全員が栄養バランスについての知識を深めていけるよう研修の機会を設けたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>	<p>感染症に対する対応のマニュアルを作成している。それに基づいて実行している。職員・利用者共に、普段から手洗い・うがいを励行している。</p>	
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>夜間帯に調理器具（包丁やまな板、ふきんなど）の塩素消毒を行っている。食器は洗浄後乾燥機にかけ、熱消毒を行っている。安全な食材の管理に努め、消費期限を厳守している。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>家族や来訪者を気分良く迎えられるように、玄関に花を飾ったり、ソファを置いてくつろげるよう配慮している。</p>	
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールやトイレにも花を飾り季節感を出している。不快な音や、光がないよう利用者に問いかけたり、職員が気遣うなど配慮している。ホールには利用者の写真を飾り、その話題で楽しんだりされている。</p>	
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールの中に、ソファを置き、一人でゆっくり過ごしたり、仲の良い人同士で話ができる空間を作っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者が安心して過ごせるように、使い慣れた家具や、着慣れた衣服、布団、家族の写真などを持ち込んでもらうよう家族にお願いしている。</p>	
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>利用者に寒暖の具合を聞きながら温度、湿度のチェックを行い調整している。調理時には換気を行うようにし、窓を開けて外気を取り入れるようにしている。</p>	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内はホール、廊下、トイレ、浴室に手すりを設置し、段差を無くしている。車椅子にも対応できるトイレを設置している。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>居室やトイレには利用者が見やすいように表示板を掲げたり、タンスに表示を付けて衣類の整理をやすくしたりしている。一人一人に合った声かけを行い出来るだけ利用者の力で生活できるように努めている。</p>	
87	<p>建物の外周や空間の活用</p> <p>建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>庭に物干しを置いて、洗濯物を干したり、花壇や鉢に花を植えて手入れをする楽しみを作ったり季節を感じるができるようにしている。</p>	

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者が2年後、3年後に今日と同じ姿であり続けられるように、日常生活の中で出来る限り時間がかかっても利用者に自分の力で生活してもらうように支援している。生活全般的に利用者職員と一緒に家事などを行うように努めている。
- ・利用者の体への負担を少しでも抑えるために、便秘や不眠の対応としてできるだけ薬に頼らない方法を検討している。